

## II-7 心房細動の原因の可能性としての Chiari-Network とそれを有する心房細動の心不全の特徴

○藤井 裕子 長谷川 範幸  
(国民健康保険 板柳中央病院)

【背景・目的】Chiari-Network は、右房に存在する場合がある網目状構造物で、下大静脈から冠状静脈洞にわたる胎生期遺残である。Hans Chiari らによる剖検例での報告にはじまり、心エコー図検査で認めることもある構造物である。臨床的には、血栓塞栓症、感染性心内膜炎、上室性頻拍症などとの関連が報告されている。また、日常の心エコー図検査において、心房細動 (atrial fibrillation: AF) 例で Chiari-Network を見ることをしばしば経験する。本研究では、心不全を合併することの多い AF 症例において、Chiari-Network の心不全への影響について検討した。

【方法】当院で 2018 年 4 月から 10 月に心エコー図検査が行われた症例を対象とした。僧帽弁流入血流波形から A 波のないものを心房細動と判断した。心不全の指標として、右房圧 (right atrial pressure: RAP)、三尖弁逆流 (tricuspid regurgitation: TR)、肺動脈収縮期圧 (pulmonary artery systolic pressure: PASP)、左房圧 (left atrial pressure: LAP)、及び、左房容積 (left atrial volume: LA volume) を、心エコー図検査で計測し算出または評価した。それらの指標を、AF 症例において、Chiari-Network の有無間で比較検討した。

【結果】当院で 2018 年 4 月から 10 月に心エコー図検査が行われた 144 例中 38 例が、心エコー図検査中に AF を呈した。Chiari-Network は、AF、発作性 AF、及び、上室性期外収縮連発症例に認められ、全心エコー図検査の 11.8% を占め、特に、AF 症例で 36.8% と頻度が高かった。Chiari-Network 群と非 Chiari-Network 群との比較において、RAP 及び LA volume は、両群間でほぼ差は見られなかった (RAP:  $6.6 \pm 3.5$ ;  $6.7 \pm 4.4$  mmHg) (LA volume:  $102.5 \pm 28.3$ ;  $102.8 \pm 46.9$  mL)。TR 重症度スコアは、両群とも平均的には中等症であったが (TR スコア:  $2.4 \pm 1.0$ ;  $2.5 \pm 1.3$ )、Chiari-Network 群でやや軽度であった。PASP 及び LAP は、両群とも軽度上昇を呈したが (PASP:  $30.1 \pm 13.1$ ;  $32.2 \pm 12.2$  mmHg) (LAP:  $13.5 \pm 2.7$ ;  $14.9 \pm 5.3$  mmHg)、Chiari-Network 群では、やや低い傾向にあった。

【結論】Chiari-Network は、AF 症例で頻度が高く、Chiari-Network と AF の関連性が示唆された。心不全の特徴は、AF 症例全体で、TR 重症度が増し、RAP、LA volume、PASP 及び LAP の上昇をきたすものの、Chiari-Network を有する AF は、Chiari-Network を有さない AF に比し、TR 重症度、PASP 及び LAP は、やや低い傾向が示された。その原因としては、Chiari-Network が、左房の形態を支え、拡大を抑制している可能性、また、Chiari-Network の網目が一部の血栓を捉え、血栓塞栓を予防する可能性、が考えられた。